

経営比較分析表（平成30年度決算）

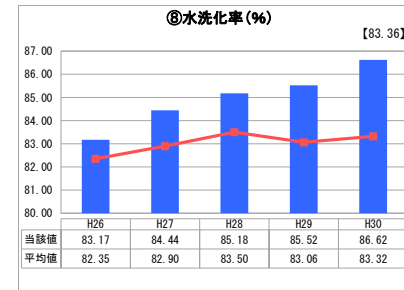
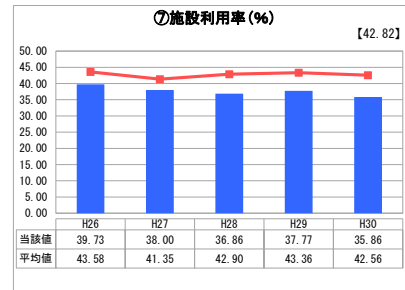
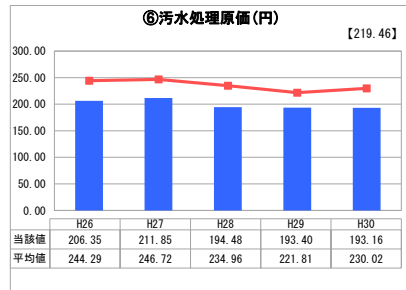
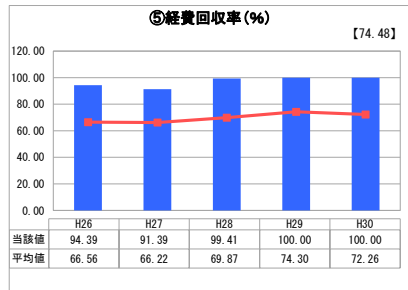
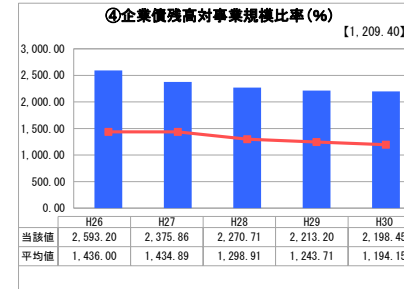
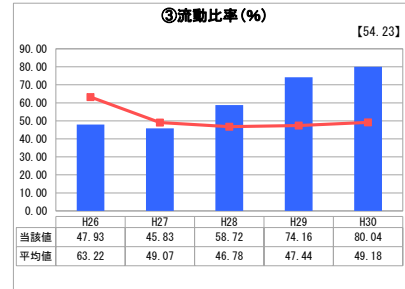
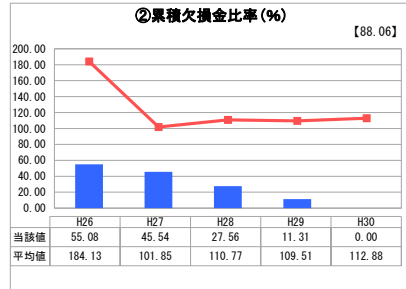
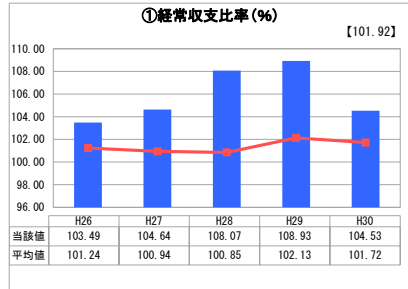
富山県 高岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	39.59	17.58	78.75	3,412

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
171,984	209.57	820.65
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
30,086	10.76	2,796.10

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

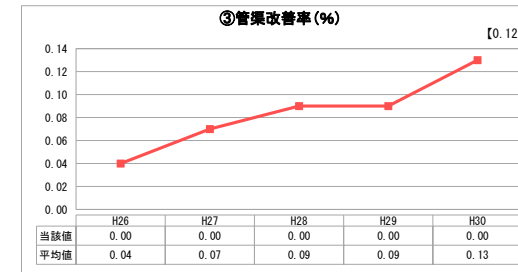
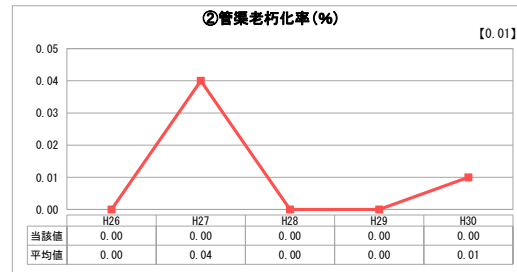
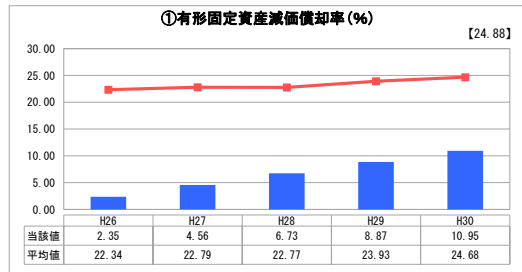
1. 経営の健全性・効率性について

- ・経常収支比率は、黒字を示す100%を上回っており、今後も業務効率化を図る中、健全経営に努めていきたい。
- ・累積欠損金比率は、今年度解消したが、今後は累積欠損金が発生しないよう健全経営に努めていきたい。
- ・流動比率は、平成29年度以降、大きく改善したように見えるが、企業債の年度末償還分が翌年度にずれ込み、年度末における現金・預金残高が増加したことが要因であり、依然低い水準にある。
- ・企業債残高対事業規模比率が全国・類似団体平均を大きく上回っている要因は、投資効率の低い農村部の整備によるものである。ただし、企業債の発行額を企業債償還額以下に抑制しているため、企業債残高は年々減少しており、今後、減少傾向で推移していく。
- ・経費回収率は、100%となっており適切な使用料水準であると言える。今後も維持できるよう業務の効率化に努めたい。
- ・施設利用率は、人口減少により処理水量は減少傾向にある。今後の需要を見極め、施設規模の見直しを図る必要がある。
- ・水洗化率は、全国・類似団体平均を上回っている。引き続き、未普及地域整備及び下水道未接続世帯への啓発を図り、普及促進に努めていきたい。

2. 老朽化の状況について

- ・有形固定資産減価償却率は、平成26年度から地方公営企業法を適用しており、全国・類似団体平均を下回っている。
- ・管路経年化率は、事業着手が比較的浅いため、法定耐用年数を超えた管路はない。

2. 老朽化の状況



全体総括

- ・効率的な事業運営に努めた結果、経常収支比率、経費回収率は100%を超え、概ね健全な経営状況にあると言える。しかし、企業債償還金の負担が大きいため流動比率が低く、今後さらなる経営改善が必要である。また、人口減少に伴う使用料収入の減少、施設の老朽化に伴う更新需要の増大など、経営環境は今後ますます厳しくなると予想される。
- ・未普及地域整備には、多額の投資が必要となることから、効率的な事業運営に努めていく中、上下水道ビジョンに基づき計画的に整備事業を進めていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管路老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。